

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0391300019
法人名	株式会社 サンメディックス
事業所名	グループホーム にこトピア浄法寺
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地 (電話) 0195-39-1818

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年5月18日

## 【情報提供票より】(平成21年2月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日
ユニット数	1ユニット利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代等実費負担	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100円	

### (4) 利用者の概要(2月16日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.4歳	最低	70歳	最高	88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	浄法寺診療所
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、二戸市浄法寺町(名刹天台寺を有する旧浄法寺町)に立地し、建物は廃校となった小学校を活用しており、幅広い廊下、共用空間も広くゆったり、元校庭周辺には桜並木があり春には花見ができ、近くの稲庭岳を眺望しながら小さい頃を思い出し過ごせる環境にある。なお、ホームは2階にあるためエレベーターを設置している。また母体法人の理念である「ホスピタリティ精神(おもてなし)に基づく地域への貢献」のほか、ホーム独自の理念を構築しケアを推し進めており、職員も「チームワークによるニーズに応えられる支援」を目標にケアをしている。なお、地域密着型サービスが地域住民にまだ浸透していないことが課題と認識しており、今後、地域の方々との対話や交流等を通じて様々な情報を発信し、ホームの機能を活かした取り組みをしたいと意欲を持っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、「地域とのつきあい」や「重度化や終末期に向けた方針の共有」等が話題になったが、話題の内容は地域との協力・支援体制の確立や、終末期等の取り組みの確立等であるが、これらについて今後検討しながら取り組むこととしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価を行い、管理者がまとめている。自己評価によって「グループホームの地域密着という視点での取り組みが不足している」ことに気づいたとしている。今後、評価のプロセスを通じて質の確保、向上を図るため、職員と話し合いを行いながら取り組みたいとしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月に1回定期的に開催している。会議では活動状況、行事計画、研修などの報告のほか質疑応答や情報交換を行っている。なお、委員の欠席が多いときは開催しないときもあるとしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 暮らしぶりや健康状況等を毎月のお便り「にこにこ」でお知らせするほか、年4回の広報誌「にこ浄報」で、表情豊かな写真による活動状況や行事案内等をお知らせしている。家族の意見、要望などについては面会時を利用し聞くようにしているほか、外部の相談窓口や連絡先をお知らせしている。また、アンケート調査を実施して利用者・家族の意見、要望を把握するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の文化祭への作品展示(折紙貼り絵やハンディモップ等)をするほか、秋祭りの流し踊り(浄法寺音頭)に参加、交流している。また、地元の子供会や小学生との交流会、ボランティア慰問の受け入れを行なっている。更に隣接する体育館やゲートボール場に来訪する地域の方々や情報交換の機会として活用している。しかし、自治会に加入し地域の一員となるまでに至っていない。

## 2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年5月18日

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念である「ホスピタリティ精神(おもてなし)に基づく地域への貢献」を基本に、ホーム独自の理念「安全で楽しく快適な生活を届ける」、「入居者、家族のプライバシーと尊厳を守る」「その人らしい暮らしを大切に」「地域と施設、入居者と家族との絆を大切にする」をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員及び家族などに見えるよう壁に掲示しているほか、朝礼時に法人理念とホームの理念を唱和し確認合っている。また、理念の具現について、ミーティングや介護計画の策定時に話し合い共有化を図るとともに実践に活かすよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の文化祭への作品展示(折紙貼り絵やハンディモップ等)をするほか、秋祭りの流し踊り(浄法寺音頭)に参加、交流している。また、地元の子供会や小学生との交流会、ボランティア慰問の受け入れを行なっている。更に隣接する体育館やゲートボール場に来訪する地域の方々と情報交換の機会として活用している。しかし、自治会に加入するなど地域の一員となるまでに至っていない。	○	地域の自治会等に参加し、地域行事に参画するなどして、地域の一員としての「つきあい」ができることを更に期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、管理者がまとめている。自己評価によって「グループホームの地域密着という視点での取り組みが不足している」ことに気づいたとしている。今後、外部評価結果を踏まえて職員と話し合いを行い質の確保、向上に取り組むたいとしている。	○	自己評価を全職員で行い、課題の気づきも得られているが、これら課題解決についてミーティングや職員会議等で意見交換するほか、運営推進会議に報告し意見提言をお願いサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は小規模多機能型住宅介護事業所と合同で2か月に1回定期的に開催している。会議では活動状況、行事計画、研修などの報告のほか質疑応答や情報交換を行っている。なお、委員の欠席が多いときは開催しないときもあるとしている。	○	運営推進会議は、報告や情報交換にとどまらず、ホームの改善課題について話し合う貴重な機会である。例えば、地域との交流、災害時の支援協力体制の確保、安心安全の確保など、様々なテーマを設定し消防署、警察、行政区長(班長)等のお話を聞くことも一考である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居待機や退所、生活保護などに係る対応のため、地域包括支援センターや福祉担当との行き来や電話による相談などを行っている。なお、現在、スプリンクラーの設置に関する相談について話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状況等を毎月のお便り「にこにこ」でお知らせするほか、年4回の広報誌「にこ浄報」で、表情豊かな写真による活動状況や行事案内等をお知らせしている。また、電話による通院後の体調報告のほか、面会時には金銭管理の確認や生活状況など、利用者個々に合わせ細やかな報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族会等は結成されていないが、家族の意見、要望などについては面会時を利用して聞くようにしているほか、外部の相談窓口や連絡先をお知らせしている。また、アンケート調査を実施し利用者・家族の意見、要望を把握するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員との馴染みの中で安心した生活を送れるよう人事異動はできるだけ少なくしているが、落ち着かず不安定な利用者には相性の合う職員を配置するなど支援している。また、1階の小規模多機能型居宅介護との兼務職員もあり1階との交流促進により馴染み関係の広がりも期待できる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が実施する研修のほか、外部研修にも参加するようにしている。スキルアップを図る希望者には勉強会などを実施し支援している。また、研修に参加したときは報告会を開催するほか、内部でのリスクマネジメントや事故、ヒヤリ・ハット事例をテーマに話し合いを持ち知識の向上に繋げている。更に人事考課による自己評価を行ない自己覚知の機会を設けてトレーニングを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の例会やブロック会議に参加し、同業者との相互の情報交換を行っている。なお、同業者間との交換研修や視察研修等の希望意見もあり、今後、取り組めるよう協力体制を図っていきたいとしている。	○	事業所の質の向上を図るためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であるが、管理者以外の職員は機会に恵まれない場合が多いので、現場職員の育成に役立つ実践的な交流や情報交換の機会の確保について、今後取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望する方の自宅を訪問し本人・家族の意向や希望の把握に努めている。また、ホームの施設見学や体験利用しながら馴染み安心してもらえるようにするほか、慣れるまで家族と情報交換をしたり、不安ぎみの利用者には、職員と会話をしたり、外出・散歩をするなど不安の解消を図る工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「なるべく好きなように生活をしてもらいたい」という考えで支援をしている。また、利用者は経験や技を持っており、それを活かしておやつづくりや、そば打ち、野菜づくりなどから学び、教えてもらうことが多く、支え合う関係づくりに役立っている。なお、食事づくりや、洗濯物のたたみ、食材の下処理、後片付けなど、利用者同士、又は職員との会話ができる機会づくりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望等をアセスメントし基本情報として把握し、ミーティング等でそれを活かすよう努めている。日々の会話や動きの中でから、新たに発見する部分もあり「如何に知らない情報があるかということに気づいた」としている。センター方式の導入を検討しており、より本人本位のケアに努めたいとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の情報や要望を踏まえたうえで職員で話し合い、意見やアイデアを反映したケアプランを作成して家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1回計画の達成状況や評価を行ったうえで見直しを行っている。なお、状況変化が生じたときは必要に応じてその都度見直しを行い計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が美容院に行ったり、買い物や通院するときは職員と一緒に付き添うなどして支援している。また、ホーム退所後も職員が見舞いに行ったり家族と情報交換したりして利用者・家族が安心して暮らし続けていけるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族は希望するかかりつけ医をもっており、協力病院(診療所)以外に通院するときは家族に依頼しているが、家族が対応できないときや緊急のときは職員が対応している。なお、看護師が付き添い医師への情報提供や専門医の意見を聞くよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期等に対する方針やそれを推進する医療連携の指針が整備されていないが、今後、利用者・家族の意向に応える環境を整えるため、協力病院の支援を得ながら取り組んでいきたいとしている。	○	重度者や終末期への対応は、事業経過とともに今後、大きな課題となるものと考えられることから、今後、事業所としての方針等について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう日頃から言葉遣いに注意し、チェック表(禁句集)をつくり職員間で徹底している。また、個人情報の記録物については、職員室に置き管理保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしい暮らしを大切する」という運営理念を踏まえ、体調が整わないため朝食の遅い方や、風呂も利用者の意向をきくなど、一人ひとりのペースに合わせ支援している。また、美容室の利用や買い物する場合も、利用者の希望や意思決定を優先した支援に心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者と相談して決め、食材も職員と一緒に買い物している。また調理の下ごしらえや盛りつけを利用者に依頼したり、食事は職員と一緒に楽しみながらしている。なお、配膳から片付けまでそれぞれ役割を持っており、張り合いや自信につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者一人ひとりの希望に合わせて対応し入浴を楽しめるよう支援している。1人で入浴することに不安を持っている方には仲の良い利用者と一緒に入浴するなどの方法で支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に合わせてサクランボ祭りや観光名所(天台寺)へのドライブなど利用者と相談しながら行っている。また、趣味の裁縫や創作作業等を行い生活の流れに変化を持たせたり、お掃除や洗濯物たたみ、カーテンを開けるなどそれぞれの役割があることで、これまで何もしない方が動くようになったなど表情が豊かになり生き生きしてきたとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへの買い物や出身地の祭り見物、ゆかりのある土地へドライブをするなどの外出支援を行うほか、散歩や畑仕事等で気分転換をする機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠とし、日中は職員の見守りの中で自由に出入りができる。なお、ホームは2階にあり、1階に下りるときはドアを開けなければならないが、そのドアにはスズ音がするものをつけているほか、1階の小規模多機能型居宅介護事業所の職員の見守りが得られるよう配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設する「小規模多機能居宅介護にこピア浄法寺」と合同で年2回の避難訓練を実施している。なお、夜間想定訓練や地域の支援や協力体制はまだ確立されておらず、今後の課題としている。	○	建物は鉄筋コンクリート造りで構造的に比較的安全性は認められるが、ホームは2階にあり、地域からも離れていることなどから、地域住民の支援、協力体制の確立が大切である。運営推進会議で協力を呼びかけたり、地域の一員として自治会に方策を相談するなどの検討に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量等について毎日チェックをしている。栄養バランスに配慮した献立となるよう毎食担当職員がメニューを作成しているが、栄養士からの助言や指導等は特に受けていない。なお、食事管理の必要な利用者はいない。	○	栄養バランスに配慮した食事に心がけているが、できれば法人系列の栄養士や市又は県の栄養士などに助言指導を得ることも一考である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日過ごす共用空間のフロアは明るく広く、利用者からは調理の様子が見え、家庭的な雰囲気を感じられる。また、コタツが置かれた畳敷きの小上がりがあるほか、ソファも配置され、利用者の共同作品(折り紙のひな人形)が飾られ、2階の窓から外をみる景観は素晴らしく、元校庭の桜並木には春の景観が想像できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはソファやクローゼットが備えられ、使い慣れた小引き出しやテーブル、座布団など持ち込んでいる。各居室には見やすい湿温計を設置して湿度や温度を調整しているほか、朝に換気を行い空気の入替えを行なうなど細かい配慮をしている。		